

健康・生きがいがづくりと組み合わせた上映のお願い

伊能忠敬は、一介の農夫から伊能家の婿養子となって一財産を築いたあと 50 歳を過ぎて家督を長男に譲って隠居し、「世界で初めて子午線の正確な長さを算出する」という壮大な夢を実現するために第二の人生を歩むことを決意します。彼は、測量を開始から 18 年かけて全国を廻り、4 千万歩の歩行実測によって日本全図作成という前人未踏の偉業を成し遂げました。

映画『伊能忠敬—子午線の夢』は、この伊能忠敬が日本地図を作る過程での苦勞、あらためて夢を持った人生の素晴らしさとそれを伝える健康の大切さを訴えた時代劇巨編です。

この映画は、平成 13 年 11 月から全国の映画館で公開されました。終了後も「もっと多くの人たちに観て貰い、生きがいと健康の大切さを知ってもらいたい」という要望が多く寄せられ、平成 14 年春以降は要望に応じて全国各地で、健康づくりのためのイベント、生きがいがづくりのイベント、ウォーキング大会と組み合わせたイベント等数多くの催しで上映されています。

このような上映会と健康、生きがいがづくりの集いを組み合わせた企画について、厚生労働省では、「メタボリックシンドローム」の関心を持ってもらうのに有効な映画であり、平成 20 年から開始する『健やか生活習慣国民運動（仮称）関連事業』として、推奨していただいております。

つきましては、健康づくりや疾病予防「ヘルスアッププラン」の積極的な事業の推進として映画『伊能忠敬—子午線の夢—』をご利用ください。

2007 年 4 月

劇団俳優座

伊能忠敬製作上映委員会

映画「伊能忠敬」上映会料金プラン

基本プラン（1日1回上映の場合）

フィルム貸出料：.....	50万円
映写料： 16ミリ・・・	15万円 *
35ミリ・・・	20万円 *
合計： 16ミリ・・・	65万円
35ミリ・・・	70万円（消費税別）

* プランの料金は、技師と機材等を含めた最大の費用になります。この他、会場の下見費用などが別途かかる場合がございます。

- 映写料は、映写技師や映写機材が必要な場合の費用です。上映会場にそれらが揃っている場合は、フィルムの貸出料のみとなります。
- 大塚製薬株式会社、他よりこの映画上映の協賛をいただいております。予算が少なく全額出費できない場合はご相談ください。
- 100名以下の会場で上映される場合はDVD等での対応も可能です。

<オプション>

宣材費： チラシ・・・ 1枚 10円（下白に印刷なし） / 1枚 20円（印刷あり）
ポスター・・・1枚 400円（半切） / 1枚 800円（B全）
スチール・・・1セット 200円（3枚組）
手拭・・・ 1本 150円

*消費税別。必要な場合は、申込書にてお申込みください。

◇ 講座・講演の企画及び、測量器具展示なども承っております。ご相談ください。

詳細のご相談・お問合せは・・・伊能忠敬製作上映委員会

〒106-0032 東京都港区六本木4-9-2 劇団俳優座内

TEL03 (3470) 2890 (代)、03 (3405) 1165 (直)・FAX03 (3470) 2053

話題と共感広げる国民的映画

映画『伊能忠敬』を活用して 健康づくりの参加型イベントを!!

—今、全国各地で自主上映の輪が広がっています。—

誰もが知っている伊能忠敬の名前……。正確な日本地図を作った男ですが、意外にその本当の姿と苦労は知られていません。50歳を過ぎてから測量技術を学び、自らの足で北海道から九州まで全国を歩き、正確な地図を作りあげた伊能忠敬は、当時でも世界トップレベルの科学的視点を有していました。その偉業の影には、家族や理解者の温かい支援があり、自らの体を鍛えて日本中の「歩測」を遂行するという努力がありました。この「第二の人生を賭けた挑戦」を作家の井上ひさしが小説「四千万歩の男」に描き、これが加藤剛さん主演で演劇となりました。更に劇団俳優座55周年記念の作品として映画化され話題となりました。伊能忠敬が実際に歩いた山や海岸にロケーションを敢行しての丁寧なドラマは、素晴らしい俳優陣の演技も相まって、幅広い世代に感動と共感を広げました。

この映画を、各地の市町村の行事・催事に活用し、「歩く」という健康づくりの原点を加味した取組みが反響を呼んでいます。この映画を当初から応援してきた厚生労働省も、さらに効果的な活用を図ろうと、様々な助成策を企画検討しています。また小学6年生を軸に伊能忠敬を学習する方向をとっている文部科学省では、「子どもと話そう」キャンペーンの材料、或いは総合体験学習の素材になる映画として活用を推奨しています。

国土交通省では、故郷の街や地域を見つめ直し、その歴史や文化を学ぶ契機となる催しでの利用、新たに広がりつつある「街道交流」の取組みでの利用を呼びかけています。



厚生労働省推薦／国土交通省推薦／文部科学省選定
日本PTA全国協議会特別推薦／全国高等学校PTA連合会推薦



21世紀における国民健康づくり運動

劇団俳優座「伊能忠敬」上映推進プロジェクト／伊能忠敬製作上映委員会
TEL 03-3470-2890／FAX 03-3470-2053

高齢化が進行する中で、医療や介護の問題など社会保障は多くの難問を抱えています。また、年金受給者も多くの不安を持っています。これらのことについて、最も望ましい答えは、生涯できる限り健康で要介護状態になることもなく、生きがいをもって過ごせることにすることです。ゴールドプランや介護保険の導入、増え続ける老人医療費に取り組んできた者として「健康日本21」「介護予防」「生涯自立支援」こそが最も大切な仕事だと思ふようになりました。このためには平素の食事のコントロール、適度の運動、特に歩くこと、高齢期の生きがいや目標を持った生き方といったことがポイントになります。

これらのことをどのように訴えたら一人一人の国民の皆様心が動き実践に移していくことが出来るのか、思い悩んでいるときこの映画に出会いました。試写会で観たとき、正直、時間が経つのを忘れました。二時間という時間がこんなに短いとは思いませんでした。江戸時代後期の歴史の一頁を生き生きと描く中で、伊能忠敬の生まれ変わりといってもいいような加藤剛さんの演じる伊能忠敬を中心に、第二の人生への思い、ほのかな男女の恋心、親子の情愛、友情、農民や郷土への献身、歩いて歩き抜くという営みの力強さ、そして何よりも「夢」を持つ事の素晴らしさがひしひしと伝わってきます。できる限り多くの人がこの映画を観て頂きたいと思います。

厚生労働事務次官

辻

哲夫

50歳から夢を追い求めた 伊能忠敬の業績とドラマを伝えたい



劇団俳優座 代表取締役

古賀 伸雄さん

1944年、青山杉作、千田是也、東野英治郎、小沢栄太郎、東山千栄子ら10名の同人でスタートした劇団俳優座は、戦後の演劇復興の旗頭として常に高い理想を掲げ、演劇の正道をめざして活動を続けてきた劇団である。伝統を引き継ぎながらも、それぞれの時代の息吹を体現した新しい作家や作品を見出し、上演することにも積極的に取り組んできた。その実績は、日本の現代演劇界にさまざまな影響を与えている。

そんな劇団俳優座の代表取締役を務める古賀伸雄さんは、入団以来、映画や舞台、テレビドラマなどのプロデューサーとして活躍。これまで数多くの作品を手がけてきたが、なかでもとくに思い入れがあるのは、01年に製作された映画「伊能忠敬―子午線の夢―」だという。劇場公開を終えてからは、自主上映というスタイルに切り換え、全国の学校や自治体にフィルムを提供するなどして地道に上映を続けているが、古賀さんはなぜこの映画の自主上映にこだわるのか。その真意をつかかった。

伊能忠敬の「日本地図」完成へ
千代子に託して



「高齢化社会の到来で、好むと好まざるとにかかわらず第2の人生を歩まなければならない時代。伊能忠敬はそういう人たちの希望の星ではないか」と語る古賀さん

井上ひさしの小説から舞台化、映画化が決まる

伊能忠敬は、初めて日本地図を作った人物として知られている。江戸時代中期の1745年（延享2）、上総国山辺郡小関村（現・千葉県九十九里町小関）の農家の次男として生まれ、18歳のときに佐原村（現・香取市）の伊能家に婿養子に入った。伊能家は酒、醤油の醸造、貸金業などを行う名門の商家で、忠敬は商人としての才覚もあつたらしく、やがて当主となり莫大な財産を築き上げた。

50歳になると家督を長男に譲って隠居。江戸に出て幕府の天文方であった高橋至時に師事し、測量と天文観測を学んだ。そして56歳

のときに測量を開始し、18年をかけて全国をまわり、歩行実測によって日本地図を完成させた。

劇団俳優座の代表取締役である古賀伸雄さんが伊能忠敬に興味をもったのは、今から40年近くも前だった。

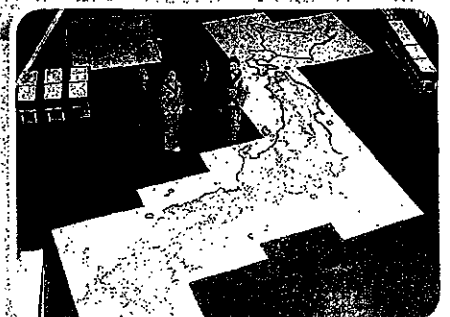
「作家の井上ひさしさんが、伊能忠敬を主人公にした『四千万歩の男』という小説を雑誌で連載していたんです。彼は忠敬に惚れ込んでいて、忠敬は地味だけど、現代人の心を揺るがす生き方をした大変な人物なんだと熱く語っていました。このころから伊能忠敬をお芝居にしたい、映画にしたいと考え始めたんですが、井上さんは、忠敬をやれるのは加藤剛さんしかないと言っているんです。当時、剛さんはまだ若かったから、それじゃあ剛さんが50歳を過ぎたころにやろう。この企画は必ず実現させましよう、と井上さんに約束しました」

伊能忠敬の生きざまに多くのメッセージが生まれる

映画やテレビドラマのプロデューサーをしていた古賀さんにとって、伊能忠敬は企画を立てるうえで格好の人物像であったという。



来る日も来る日も背筋をピンと伸ばして美しく歩き続け、日本地図を作り上げた伊能忠敬の18年に及ぶ測量の旅と人間模様を描いた映画「伊能忠敬—子午線の夢—」。伊能忠敬を演じる加藤剛さんは「健康日本21推進国民会議」の委員も務め、自らウォーキングを毎日楽しむという



「井上さんの小説の質が高かったこともありですが、伊能忠敬の生きざまを忠実に描けば、そこにたくさんのメッセージが込められ、感動も生まれると思えました。たとえば、彼は隠居してから測量術を学び、全国を歩いてまわって日本地図を作るという大偉業を達成しています。リタイアしたあとに、それまでとは異なる第2の人生を歩むこともできるというメッセージです。それから、夢をもつことの大切さ。夢に向かってひたむきに努力することは美しく、生きる糧にもなるということ。さらに、親子、男女の愛や絆の大切さなど

を、ときには感動を伴いながら伝えることができるのです」

舞台が実現したのは1999年のことで、井上さんとの約束どおり、主役は加藤剛さんが演じた。同じころに映画化の話も進行しており、翌年にクランクイン、01年に劇場公開を果たした。映画の主役も舞台と同じく加藤さんが務め、その円熟した演技は高い評価を得た。

「そのころの加藤剛さんは58歳で、晩年の伊能忠敬を演じるのにふさわしい風格があり、井上さんや僕が描いていたイメージにぴたりと合いました。剛さんは、自分



「伊能忠敬は毎日歩くことで

長生きした。しかも生涯現役で

終わったことはすばらしい」

のサインを色紙に書くと、以前は「大岡越前」と文字を添えていましたが、伊能忠敬を演じてからは「夢と歩む」という言葉を添えるようになりました。剛さんにとっても、この映画は俳優人生の集大成とも言えるものになりました」

自主上映を続けて一人でも多くの人に観てもらいたい

古賀さんは、加藤剛さんが演じる伊能忠敬の歩く姿にも注目してほしいと話す。

「ぴしっと背筋を伸ばして、前を見据えてまっすぐ歩いているシーンがたくさん出てきます。これは自分の歩幅で距離を算出する当時の測量法でもありますね。忠敬はとにかく毎日歩いて、18年間で延べ4万kmを踏破したそうで、高齢者であったのに、なぜそんなに歩けたのか不思議です。決して体が丈夫だったわけではなく、商家で働いていたころはかせをひいたり、おなかを壊したりしていたそうですよ。毎日歩くことで健康になったのか、追いかける夢があったからなのかはわかりませんが、最後までそういう姿でいられるというのは、僕はうらやましいと思います」

▲「この映画は親子、あるいは3世代一緒に観られます。脚本もうまくできていて飽きるとはなりません。その完成度の高さから文部科学省選定となり、総務省、厚生労働省、国土交通省から推薦、日本PTA全国協議会からは特別推薦されている

▲舞台と映画で伊能忠敬を演じた加藤剛さんの直筆。サインするときこの言葉を使うことが多くなったという



生涯できる限り健康で、介護が必要な状態になることもなく、夢や生きがいをもって過ごすというのは、誰もが望む生き方である。この映画には、健康に対する意識が高くなる要素も含まれている。

「『伊能忠敬―子午線の夢』は、子どもから高齢者まで、どの世代が観ても満足してもらええる作品だと自負しています。だから、一人でも多くの人に観てもらいたくて、劇場公開を終えたあとも、全国各地で自主上映を続けています。今の時代、DVDにして販売すれば、それで済むのかもしれませんが、この映画はやはり暗い中で、大きなスクリーンで観てもらいたい」と話す古賀さん。時間がかかって効率が悪くても、この方法でコツコツとやっていると、いつかやがて大きな足跡になると確信しているのだ。

取材・文 倉地讓

プロフィール このぶお

1937年福岡県生まれ。63年に劇団俳優座に入団し、映画放送部長や俳優部長などを務めながら数多くの映画やテレビドラマのプロデューサーとして活躍。主な作品に「明日また生きる」(69年)、「黒の斜面」(70年)、「ハラスのいた日々」(89年)、「戦争と青春」(91年)、「アカシアの町」(96年)がある。95年に代表取締役役に就任、現在に至る。